



明日の
EXECUTIVE
2026

2026年度版
発行日：2026年3月1日 発行：筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 発行人/編集責任者：柏木健一 編集：松原康介 市川千尋 伊藤春奈 岡本みどり 坂元美織 土肥幸奈 直江瑛恭
印刷/製本：朝日印刷株式会社 お問い合わせ：国際総合学類事務局 〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1 Tel: 029-853-6010 HP: <http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp>
©2026 国際総合学類 無断複製厳禁

EXECUTIVE 2026

筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類



国際人の育成

私たちが住む日本では、失われた20年または30年といわれるように、バブル崩壊後経済の低成長が続いており、少子高齢化そして超高齢化社会を迎える中、国家財政的にも政策的にも国内問題への取り組みが重視されています。人口減少下で国内経済が収縮する今日では、私たちが目を向けるべきことは、遠くの国際社会の出来事よりも身近な国内の問題であるのかもしれませんが。

しかし、広い視野で世界を見渡せば、国際社会はより困難な時代を迎えています。東アジアでは中国の台頭によって米中・日中関係が緊張しており、米軍撤退後のアフガニスタンではイスラーム主義組織が実権を握り、先進諸国でも保守主義やナショナリズムへの傾倒が見受けられ、権威主義体制の復活や民主主義の後退が世界各地で生じています。米国では、第二次トランプ政権が誕生しました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は長引き、イスラエルとパレスチナ・ガザの停戦交渉の先行きも不透明です。このように変動する国際情勢の中、国家主権、人権、法の支配といった国際規範は大きく揺れ動く時代となっています。また、ウィズコロナ下での景気回復やウクライナ危機によってエネルギーや食糧の価格が世界的に高騰し、経済活動のグローバル化による相互依存関係の脆弱性が露呈しています。近年、大雨や洪水、干ばつが局地的に頻発しており、気候変動による影響が各地で生じている可能性も否定できません。SDGs（持続可能な開発目標）の達成が国際社会の共通目標とされていますが、人間開発や社会開発に関わる課題は山積しています。このように複雑かつ予測不可能な国際社会の変化に、私たちはどのように対応したらよいのでしょうか。自由や民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値の共有がこれまで以上に必要とされる中、国際社会の安定と発展のために何が課題となるのでしょうか。グローバル化によって国内問題も国際問題と無関係でなくなっている中、ローカルな社会や人間はどこに向かうのでしょうか。感染症、貧困、所得格差、気候変動、紛争、差別、自由貿易、規制緩和、情報の氾濫など、目を向けるべき国際社会の諸問題は無数にあり、相互に複雑に絡み合っています。

国際総合学類は、これらの問題を含む現代社会の諸課題に対し、グローバル、ローカル双方の視点から深い洞察力と分析力を身につけ、豊かなコミュニケーション力を通じて先見性と独自性に富む解決策を提示できる「国際人」の育成を目指しています。ナショナリズムや自国優先主義、保守化や内向き思考は、日本だけでなく世界的な傾向であるのかもしれませんが、ただし、このような時代であるからこそ、グローバルな視野を持った国際人の育成は大学の重要な使命といえるでしょう。

国際総合学類での学び

国際総合学類には国際関係学と国際開発学の2つの主攻があります。さらにその2つを横断する形で、国際政

治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境という文と理にまたがる4つの分野が存在しています。これら4分野の科目群を広く学び、その上で1つの専門分野を深く追求することになります。

(1) 分析力

日々激動する国際情勢を読み解くには、確かな分析能力が必要です。国際総合学類はこの能力が身につくようなカリキュラムを用意しています。政治学の理論や政策決定のプロセス、経済動向、またはその背景にある文化等を学ぶことで世界の変化を定性的に理解できるようにすると同時に、統計学やデータ分析の授業で数値による定量的な分析能力を養成します。さらにフィールドワークの授業も設置されており、どう分析するのかを実践を通して学ぶことが可能です。

(2) コミュニケーション力

国際総合学類では3分の1近くの授業が英語で行われています。これは単純に英語を重視するというよりも、異なる文化背景による異なる言語上での他者とのコミュニケーション能力を培うためです。その中にはディスカッションやプレゼンテーションが中心のものやディベートの授業もあり、留学生・日本人学生双方がこの能力を育てられるように設置されています。また、国際総合学類が属する社会・国際学群には、社会国際教育プログラム（略称TISS）という全科目英語による留学生向けプログラムがあり、日本人学生も同プログラムの科目を履修することが可能です。

(3) 総合能力

分析力、コミュニケーション力を培った上で最後はそれらを動員し、問題をより高い視点から一つの考察へまとめ上げることが大切です。国際総合学類には独立論文というユニークな制度があります。通常、すべての学生は3年次から専門ゼミに所属し研究を進めていくことになります。そして3年次末に独立論文を執筆し、専門分野に関する研究の中途段階における成長発表の機会としています。これは、個々の研究の土台であり、学生が長いスパンの中で一つの研究テーマを掘り下げ、研究により深みを持たせるためのものです。これらは4年次でさらに探究され体系化されて最終的には卒業論文（必修）としてまとめられます。様々な授業を通して培った総合的な力を専門性につなげる学びを、国際総合学類は推進します。

国際総合学類は独創性と洞察力を有し、国際社会及びそれと連動するローカル社会の繁栄と発展に寄与できる人材の育成を目指していますが、それを実現するには教員側の努力はもちろんのこと、学生の主体的な取り組みも不可欠です。国際社会の諸問題をどう見るのか、それらの問題の解決に向けて現在の自分は何をすべきかを真剣に考えながら、学問に精進し、その上、国内外において実践的な活動に励む、それが国際総合学類生（「国際生」）の姿です。このような国際生（4年生）たちによって企画・編集されている本誌をぜひ紐解いていただきたいと思います。

01

学類長挨拶

Kashiwagi Kenichi

柏木 健一

社会・国際学群 国際総合学類 学類長

CONTENTS

01 学類長挨拶	01
02 カリキュラム紹介	03
03 分野紹介	05
04 教員紹介	07
05 留学体験記	13
06 OB・OGからのメッセージ	15
07 学生紹介	17
08 編集後記	25

02 カリキュラム紹介

国際関係学主専攻

国際関係学主専攻では、現代の国際問題に対する理解を社会科学を中心とした学際的な観点から深め、ガバナンス志向的な問題解決の能力を養うことを目標としています。学生の選択の幅を広げるため、政治学、経済学、国際法、文化系領域など各授業領域の垣根を低く設定しています。

国際開発学主専攻

国際開発学主専攻では、国内外における新たな社会システム・概念の提案、人的資源の育成、合理的な合意形成に基づく環境保全、社会基盤整備、情報・通信技術と社会との協議など、実社会において「創造・選択」をする際に必要となる知識や能力を養います。これに向けて本主専攻には、経済・文化・社会開発の授業科目領域および情報・環境分野の授業科目領域が設定されています。

専門科目

国際政治・国際法分野

アジア政治
現代日本外交史
現代中国研究
国際組織法
国際法Ⅰ
国際法Ⅱ
国際政治学
国際機構論
アジアの国際関係
東アジア国際関係史
ヨーロッパの国際関係
日本政治
ヨーロッパ政治
市民社会論
中央アジアの国家と社会
Globalization and Development
外交法政策論
Public Policy
Transnational Social Policy
政治参加論

日本政治思想
国際政治史
憲法Ⅰ
憲法Ⅱ
行政学Ⅰ
安全保障論
Japanese Foreign Policy
Japan and the World
人間の安全保障論
アメリカ政治外交論
現代中東政治
International Relations in the Asia-Pacific
Politics and International Relations in South Asia
国際人権と法
Introduction to International Law
International Humanitarian Law

経済学分野

国際貿易論
国際金融論
公共政策分析
公共経済学
ミクロ経済学
マクロ経済学
ジャパニーズ・エコノミー
基礎経済数学
経済数学
Mathematical Economics
History of Economic Thought

計量経済学
国際開発論
開発途上国における諸問題
北アフリカの経済と社会
開発と金融
International Financial Institutions and Economic Development in Southeast Asia
開発経済学
Health Economics
地理情報システム概論

文化・社会開発分野

国際文化論
言語人類学
人類学特講
現代社会論
開発人類学
地域開発論
Social Development
教育開発論
International Education(国際教育論)
日本教育概論(Outline of Japanese Education)
Social Anthropology(社会人類学)
社会開発論
教育援助政策論
北アフリカの文化と社会
環境人類学
国際農業開発論
ラテンアメリカの環境と社会

情報・環境分野

応用数学
情報科学II
データ解析
水環境論
都市文化共生計画
住環境計画概論
宇宙開発
環境政策論
音声聴覚情報処理
信号処理
コンピュータグラフィックス基礎
情報セキュリティ
ヒューマンインタフェース
人工生命概論
都市経済学
都市計画演習
都市計画原論
都市計画の思想史
都市計画の歴史
コンピュータネットワーク
機械学習
知能情報メディア実験A・B

卒業論文
専門ゼミナール
インターンシップ

専門科目

専門基礎科目(選択)

専門基礎科目(必修)

専門基礎科目(選択)

国際関係論
比較政治学
国際関係史序説
国際法概論
初級ミクロ経済学
国際経済論
マクロ経済学概論
文化・開発論
数理科学Ⅰ
数理科学Ⅱ

情報科学Ⅰ
情報メディア概論
法学概論
Media Politics
政治変動論
統計科学
社会科学のためのデータサイエンス
English Discussion Seminar
English Debate

専門ゼミナール・インターンシップ・卒業論文

国際学ゼミナールⅠ
国際学ゼミナールⅡ
独立論文
卒業論文

インターンシップⅠ
インターンシップⅡ
海外研修Ⅰ

専門基礎科目(必修)

国際学Ⅰ 国際学Ⅱ 国際学Ⅲ 国際学Ⅳ

国際政治・国際法

大塚愛理（国際政治学、日高ゼミ）

「いま就活してると思うんだけど考えている将来の進路ってどんな感じ？」

大塚：マスコミ、特にテレビの仕事に興味があるんだよね。ちよつと大きい話だけどニュースとかを通じて、日本の民主主義を支えるような役割を担えたらいいなと思ってる。

「そこから「国際政治」を選んだのは意外かも。

大塚：そうだよね（笑）。でも、ニュースを見てみると、国際問題って表面だけだと分かりにくいことが多い。何が原因で、どこが対立しているのかを整理するには、理論的な視点が必要だと思っただよ。

確かに、今の政情を理解するのに背景を知らなきゃいけないことって多いよね、ゼミ選びも、そこがポイントだった？」

大塚：そう。国際のゼミって地域研究が多い印象があつて、先生の専門領域を深くやるところも多い。でも自分は、特定の地域よりも、国際政治学の考え方を学びたかった。それで今のゼミを選んだんだよね。

なるほどね。実際にいま書いている独立論文のテーマはどんな感じ？

大塚：デュアルユース技術って言うって軍事と産業の両方に活用できる製品やサービス、技術をめぐる国際協力の難しさについて書くつもり。ドローンとか原子力みたいに、民間にも軍事にも使える技術って、開発を止めることはできないけど、安全保障上はかなり厄介な存在。ルールを作ろうとしても、国同士でなかなか合意できないところが問題だと思ってる。

初めて聞いた言葉だけどわかりやすく教えてくれてありがとう。さすがマスコミ志望だね（笑）実際研究の進め方はどうなの？

大塚：基本は文献調査だね。国際政治は英語論文を読んで考えるのがメインかな。ゼミでは3年生のうちから1人ずつ論文を輪読して、「この論文の弱いところどこ？」っていう研究の穴を見つけるための目を鍛えるためにみんなで議論する。

毎週読んでくの、結構大変そうだね。

大塚：正直、楽ではない（笑）。要旨をまとめたり、論点を整理したり、討論者として意見を言ったり。でも、その分「読む力」と「考える力」はかなり鍛えられると思う。

「そつか、ゼミの雰囲気はどんな感じ？」

大塚：3時間くらいで、人数は多め。先生がMCみたいに話題を振ってくれるから、ずつと張りつめてる感じではない。分からないことがあれば、後でメールで聞くこともできるし、距離感はこちらのほうが思ってる。

「いいね、ゼミの雰囲気大事だよ。国際総合学類で学んでよかったなと思うところは？」

大塚：やっぱり1・2年で基礎を一通り学んでから専門を選べるところかな。中国研究とか国際法の授業も取ってみたら面白くて、受ける時は課題とか勉強辛いなど

思っても思いつくし役に立ってるなどと思うよ。

最後に、国際政治を学ぶ面白さって？

大塚：世界のニュースがなんとなく分かるから理由が見えるようになるのかな。将来、伝える側に回るとしても、この視点は絶対に役に立つと思ってる。

03 分野紹介

経済

古山亮（計量経済学、柏木ゼミ）

「まず、そもそもなんで経済分野を選んだの？」

古山：もともと、データを扱った研究がしたいっていう思いがあつたかな。数字を使つて何かを説明できるようにしたいと思つて。経済学を学べば、ニュースとかも今よりちゃんと理解できるようになるんじゃないかなって思ったのがきっかけ。

「たしかに、ニュースって数字多いもんね。統計とかグラフとか、なんとなく見て終わっちゃう人も多いし。じゃあ、実際に入つたゼミはどんな感じなの？」

古山：経済学の中でも計量経済学のゼミだね。統計ソフトを使って、データをもとに分析するゼミ。理論中心というより、実際に数字を使って検証するタイプかな。正直、入るまで計量経済学のことあまり知らなかつたんだよね。

「計量経済学って名前だけ聞くとハードル高そうだけど、意外と勢いで飛び込んだ感じなんだ。実際にやってみて、どうだった？」

古山：最初は本当に知識ゼロで、ついていくのが大変だった（笑）。でもゼミ内でのサポートはかなり手厚くて。ゼミは基本的に毎週2時間あつて、論文の輪読をしたり、分からないところはいつでも質問できる雰囲気だから、少しずつ実力がついていった感じ。

「ちゃんと面倒見てもらえる環境なんだね。今取り組んでいる独立論文のテーマはどんな感じ？」

古山：「中東におけるテロリズムの発生が、国民間の信頼にどう影響を与えているか」というテーマ。国際と経済を組み合わせた感じかな。

「経済学って、もつと市場とかお金の話だけかと思つた。そのテーマはどうやって決めたの？」

古山：最初に自分で案を出して、それを先生に判断してもらつた。実は最初はSNS系のテーマも考えたけど、データの関係で結構難航して、教授と相談しながら方向転換したんだよね。

「やりたい」と「できる」の間で調整する感じ、研究っぽいね。じゃあ、結論はもう見えてきてる？」

古山：データが出てくるまでは分からない、っていうのが正直なところかな。仮説としては、テロが発生すると国民同士の信頼は揺らぐんじゃないかって考えてるし、そう証明できたらいいなと思ってる。

「そもそも「信頼」って、どうやって数字にするの？」

古山：アラブ・バロメーターっていう、公表されている調査データを使つてる。人々に対する質問項目があつて、それを統計ソフトにかけて分析する感じ。

「感覚的なものを、ちゃんとデータに落とし込むのが計量経済学っぽいね。ちよつと話変わるんだけど、授業で印象に残ってるものは？」

古山：国際の授業で受けた、計量経済学の授業かな。英語の授業なんだけど、ゼミで使つてるのと同じソフトを使いながらレポートを書くから、かなり実践的で。基礎の補強にもなつたんだよね。留学先でも経済学の授業を取つたから、基礎を改めて学べたのも大きかった。

英語でソフトを使って勉強するのは大変そうだけど、その分力がつきそうだね。筑波の国際で計量経済学を学ぶ意味って、どこにあると思う？」

古山：やっぱり柏木先生のもて学べるのかな。物腰が柔らかくて、疑問に思つたことは本当に何でも聞ける。研究する環境としてすごく恵まれてると思う。

「聞きやすさ」って、実はかなり重要だよ。ゼミの規模はどれくらいなの？」

古山：全部で5人。後輩が2人、同期が1人、院生が1人っていう比較的少人数なゼミだよ。

「最後に、将来はどんなことを考えてる？」

古山：メーカーとかインフラ系を見て。ガスや電力みたいに、社会を支える仕事に関わりたくなつて。営業職にも興味があつて、接客したあとに「ありがとう」って言われるのはやりがいだと思う。あとは、AIに仕事を奪われないようなスキルを持ちたい（笑）。

現実的だし、ちゃんと今の勉強ともつながつてる感じがするね。頑張れ！

文化・社会開発

野馬口愛花（言語人類学、井出ゼミ）

「野馬口さんはどんなサークルに入つたの？」

野馬口：ダンスサークルの「REALJAM」っていうのに入つたよ。私の大学生活は本当にダンス一筋だったかな。イベント前は朝の6時まで練習することもあるくらい、みんな本気なんだ。特に3年生で執行代になつた時は、先輩たちの思いを引き継ぎながら、後輩たちをどうまとめいくかですごく悩んだ。組織を運営する難しさを知つて、正直しんどい時期もあつたけど、納得して引退するまでみんなと走り抜けたのは本当に良い経験になったよ。

「そうなんだ、何かに本気で打ち込めるのつていいよね。そんな野馬口さんが、ゼミでは「言語人類学」の井出ゼミを選んだのはなんでだったの？」

野馬口：もともとマイノリティのアイデンティティ形成に興味があつたんだ。国際（国際総合学類）って法学や経済が強いけど、私はもつと文化とか、人の内面を知りたくて。他のゼミとも迷つたんだけど、インタビューとか対話を大切にする井出ゼミのスタイルが自分に合つてるな、ここで質的調査をしつかり学びたいな、つて思つたのが決め手かな。

「ゼミの雰囲気はどう？入る前とイメージ違つたりした？」

野馬口：ギャップは全然なかつたよ。みんなやりたいことがあつて集まつてるから、最初は「みんなの熱量に追いつかなきゃ！」つて焦つたこともあつたけど（笑）。今は、自分がしたいことに没頭できるし、みんながそれを認めてくれる環境だからすごく居心地がいいんだ。OBやOGの社会人の人たちが遊びに来てくれて、一緒に混ざつて話せるのもリフレッシュになつてるよ。

「独立論文では「ハーフのアイデンティティ」をテーマにしたんだよね。

野馬口：うん。日本社会の中でハーフの人がどうアイデンティティを作っていくのか、インタビューを通して研究したんだ。私も身も当事者だから、その視点をもちつつ進めたんだけど、実際に話を聞いてみると自分と重なる部分もあれば、人によって悩みへの向き合い方が全然違つたりして。その「人による違い」が本当に面白くて、最後まで書き切ることができたよ。

「研究以外だと、何か印象に残つてる授業とかある？」

野馬口：日高先生の「アメリカ政治外交論」が面白かつたな！歴史が今の政治にどう影響を与えてるのが分かつて、ニュースを見る時の理解度が変わった気がする。大学での学びが日常生活に応用できてるんだね。最後に、これからのこと教えて！

野馬口：4年の秋から1年間、アメリカに留学に行こうかなつて考えてるんだ。日本を離れて新しい環境に身を置くことで、また一歩成長できたらいいな！

情報・環境（建築・都市計画）

土肥幸奈（都市計画、松原ゼミ）

「今日はありがとう！まずは、土肥さんが大学でどんなことに興味を持ったか教えてよ。」

土肥：こちらこそ！私が今やつてるのはね、「街がどういう風になってきたのか」っていう、都市や建築の歴史のルーツを探る感じかな。都市計画のやり方とか、建物が周りの景色とどう馴染んでるか、みたいなことに興味があつて勉強してるんだ。

「都市計画っていう学問分野があるんだね！面白そう！今のゼミに入つたのは、やっぱりそういうのが好きだったから？」

土肥：うん、都市計画をやりたいのはもちろんだけど、一番はゼミの雰囲気惹かれたかな。みんな当たり前のようにいろんな国に留学に行つて、「あ、ここなら面白いことできそう！」つて直感で決めた感じ。やっぱり留学経験のある人が多いのが国際のいいところだよ。実際、ゼミってどんな感じなの？」

土肥：地中海エリアが中心なんだけど、みんなで歴史を掘り下げたり、実際に現地に行つて調査したりして、都市の歴史や成り立ち、多文化共生について考えてるよ。週に2回研究報告があつて、院生や博士の先輩からもバンバン意見をもらえるから、すごく刺激になるんだよね。春学期には、輪読して実際にその場所を訪問する「まちあるき」もやつてるよ！メンバーは基本的

にみんな留学して院に進むから、いろんな経験や価値観を持つてる人がいて一緒に活動してて面白いよ。

「土肥さん自身の「独立論文」は、どんなテーマで書いているの？」

土肥：明治時代の東京の話なんだけど、「東京市区改正」っていう大きな計画に、実はバリの都市計画が影響してたんじゃないか？つていうのを調べてる。研究方法は古い文献をひたすら読み込んで、パズルのピースを埋めていく感じかな。

「渋いね！つくばでその研究をするメリットってどんなのがある？」

土肥：うちのゼミは、社工（社会学）の生徒もいるから数理的な視点と、国際（国際総合）の多角的な視点をミックスできるのが、つくばならではの強みだと思つて。「住環境計画概論」って授業も、今の私のベースになつてすごく面白かつたし！

「土肥さんは勉強以外にも、部活とかサークルで忙しそうだけど学生生活は楽しんでる？」

土肥：部活は漕艇部で思いっきり体動かししてるし、サークルではクラシックコンサート

の運営もやつて日々充実してる。どつちも全然違うジャンルだけど、全力でやるのが自分らしいかなつて。

「文武両道で土肥さんは本当アクティブだよ。大学を卒業した後はどうする予定なの？」

土肥：街の歴史を大事にしながら、人々の生活を支えたいなつて思つてるから、将来は鉄道業界を目指してるよ！



国際政治・国際法分野 International Politics and Laws

政治学系と国際法学系の科目を中心に、社会学類開設の憲法や行政学等を共通科目とすることで履修科目の充実を図り、国際社会の多様化、高度化、グローバル化に対応して、幅広い分野における調査、分析、政策立案などの高度な実践能力を有し、日本国内だけでなく国際社会においても指導的役割を果たすことができる人材養成を目的としています。

潘亮

Pan Liang



- ①日本外交史。一枚一枚の資料を通して遠い過去と遠い将来の間に位置する現在の国際社会の諸問題とその意義をじっくりと観察・思索しながら、時代の躍動感を「静かに」満喫する機会に恵まれる分野です。
- ②大学を単なる問題解決の方法を習得するための場所としてではなく、問題を発見する方法、そして問題に立ち向かう姿勢を学ぶ場所として活用していただきたいと思っています。

レスリー タック川崎

Leslie Tkach-Kawasaki



- ①Political communication, especially through the Internet, has many dimensions, such as policy- or election-related communication. Media formats have changed greatly since the introduction of the Internet. I am keenly interested in studying these types of communication formats through various online channels.
- ②University life offers great opportunities to discover your unique talents and contributions to society. We are happy to help you fulfill your dreams!

東野 篤子

Higashino Atsuko



- ①現代ヨーロッパの国際関係。欧州連合 (EU) を中心としたヨーロッパの国際関係を学んでいます。ユーロ危機、ノーベル平和賞、トルコの加盟交渉の行方、ウクライナなどの周辺諸国の危機など、悲観的要素と楽観的要素が常に交錯するEUから、片時も目が離せません。
- ②たくさんの本を読み、貪欲に学んでください。

Timur Dadabaev



- ①国際関係論・地域研究 (中央アジア研究) を専門としています。特に、中央アジアと日本・東アジアとの関係、移民・移動、人のつながりを通じた国際関係の変化を研究しています。国境を越える人・知識・価値観の移動を通じて、国際社会がどのように変化しているのかを実証的に考える点に、この分野の面白さがあります。
- ②世界は想像以上に多様で、同時につながっています。国際総合学類では、その「違い」と「つながり」を自分の頭で考え、言葉にする力を身につけることができます。ぜひ好奇心を大切に、一緒に学びましょう。

大友 貴史

Ohtomo Takafumi



- ①国際関係論、国際安全保障、同盟政治。答えがひとつではないところ。
- ②Critical thinkingを大切に。

大倉 沙江

Okura Sae



- ①政治学、市民社会論、利益集団論、ジェンダー論。日本の福祉政策・女性政策はどのように変化しつつあるのか、またそれに圧力団体 (女性団体や障害者団体と呼ばれる団体) がどのような影響を与えているのか分析し、より社会的に脆弱な立場に立たされている人々の意見が政策に反映される条件について考えています。
- ②本を読み、自分でデータを集め、分析するという訓練を通して、多様な価値観がある社会の中でも自分の人生の基盤となる考え方や価値観を一緒に身につけましょう。

茅根 由佳

Kayane Yuka



- ①東南アジア政治。特にインドネシア政治を中心に研究しています。体制変動や民主化に伴う地域独自のダイナミズムの究明に研究の面白さがあります。
- ②積極的に海外に出て多様な価値観を学んでください。

外山 文子

Toyama Ayako



- ①タイ政治、比較政治学。タイでは過去19回もの軍事クーデターが起きています。経済は順調に成長したものの、政治はなかなか民主化しないタイ政治は、奥深くに興味を尽きません。
- ②好奇心を持って、楽しみながら勉強できるといいですね。

佐藤 麻理絵

Sato Marie



- ①中東地域研究、難民研究、現代ヨルダン政治。中東は難民問題の震源地であり、政治的・社会的変動が絶えず続いている地域です。変革の途上にある中東地域 (さらにはイスラム世界) は尽きない魅力で溢れており、多様な角度・視点から考察し分析する醍醐味があります。
- ②大学は知的好奇心追求の場です。たくさん疑問を自らの意思と行動で、思う存分追求して下さい。また、疑問を抱いた対象の普遍性や自明性についてを問う姿勢も大切に。

日高 薫

Hidaka Kaoru



- ①国際政治学、安全保障、軍縮不拡散、政軍関係。安全保障をめぐる様々な政治現象を説明するための理論的研究をしています。理論は「学ぶ」のも「使う」のも面白いですが、一番は自分で「作る」ことだと思います。良い仮説を思いついたときの知的興奮 (と、それが間違っていることに気づいたときの悔しさ) に日々翻弄されています。
- ②食わず嫌いせず、色々な分野の知見に触れてみてください。

S. Zia E. Madani



- ①International law as it relates to cryosphere and hydrosphere sciences, in which I adopt a systems approach to address their complex planetary implications, which challenge existing governance frameworks.
- ②Be sensitive to global dynamics. Your challenge as next-generation scientists, experts, diplomats, lawyers, skilled workers, etc., is to operate across a 'continuum of urgencies'—transforming thought into action with inclusion (who, what, when, where, why, and how)—and to utilize your knowledge and skills as the language of hope.

Chotani Vindu Mai



- ①International Relations; Indo-Pacific; Japanese Foreign Policy, Indian Foreign Policy
The political climate in the Indo-Pacific region is changing rapidly. Interactions and relations between the states and nations are having and will continue to have a significant impact on the future of our world. Therefore, it is interesting to think about and study questions such as, why do states behave the way they do? How are decisions made? What influences these decisions?
- ②Be curious, never stop learning and don't be afraid to ask questions.

Murod Ismailov



- ①Communication and Thinking Skills; Meaningful Interactive Teaching
- ②Make yourself UNcomfortable. Ask many questions — don't worry about the answers or the grades. Ignore easy, meaningless work. Do only meaningful, hard work — consistently. Turn off your computer and phone; go explore the world and meet new people. How do you do all this? Join one of my classes — English Debate or English Discussion Seminar. No, we don't actually debate. We learn to speak simply but clearly, listen with empathy, and share our stories.

吉田 脩

Yoshida Osamu




- ①国際法。国際法の誠実な解釈・適用を通じ、国際紛争の平和的な解決などに対して、立法・司法・行政を含む実務の観点からも、具体的な場面で貢献できること。
- ②外国語を駆使し、国際法の分野において、世界的に活躍のできる人材に育つことを期待しています。

 **経済学分野**
Economics


変化する経済のグローバル化と企業活動の多国籍化、地球規模の環境問題、先進国で急激に進む高齢化・少子化、経済成長の国際不均衡、発展途上国における慢性的貧困問題等の現代の経済問題を分析し、解決策を提案できる人材、あるいは様々な企業・政府活動において自分自身の行動の羅針盤となる経済知識を持つ人材の養成を目的としています。

柏木 健一
Kashiwagi Kenichi



- ①開発経済学、中東・北アフリカ経済研究。現代中東・北アフリカの地政学的特性や歴史背景、社会制度を踏まえて、現地の農家や小規模産業の経済行動をマイクロデータを用いて実証的に分析し、産業発展や技術革新、雇用創出に生かそうと研究しています。現地のフィールドから経世済民を考えることに研究の面白さがあります。
- ②文系理系の枠にとらわれず、幅の広い視野を持ち、知的好奇心を常に磨きましょう。学生時代に広めた見聞や深めた知識は将来の貴重な財産です。グローバルな課題を抱える世界に目を向けましょう。

中野 優子
Nakano Yuko



- ①開発経済学。発展途上国の人々がどのように貧困から抜け出せるかを研究しています。アフリカ農家に話を聞いて得たデータを分析し、所得向上のための方策を途上国政府、援助関係者や農家の方々と共有できることがやりがいです。
- ②大学では論理的な思考能力と、自らが生きる社会を相対視する力を養ってもらいたいと思っています。大学の勉強は「知的なときどき」に満ち溢れています。たくさん勉強して、いろいろな経験をして、悩んで、何か一つ、「これだ!」と思えるものを見つけてください。

Fatwa Ramdani




- ①Geographical Information Science (GIS) for Economic and Social Studies
My lab works at the intersection of advanced geospatial technology and real-world societal challenges. I use Geospatial Artificial Intelligence (GeoAI) and Earth observation data from satellites, UAVs, and large-scale cloud platforms to detect patterns, reveal processes that are otherwise invisible, and convert raw geospatial measurements into evidence that matters.
The appeal of this field is simple: it allows us to understand how the world actually works. By extracting meaningful signals from complex geospatial data, we can better address issues such as environmental change, resource management,

Moges Abu Girma




- ①Economic Policy and Poverty Analysis. The field of economic policy and poverty analysis blends both the theory and practical applications to solve some of the most pressing economic challenges of our time. Such a field of research appeals to me as it helps to identify reform areas to improve the life of millions of people.
- ②We live in a brave world that requires recurrent adjustment and vision. As the young generation, open yourself to the world and enjoy the challenge of shaping the new world of tomorrow.

内藤 久裕
Naito Hisahiro



- ①公共経済学・持続可能性研究 人工衛星画像や気候データと家計サーベイデータを組み合わせ、森林伐採、飲み水、マラリア、PM25が健康、飢饉、移動、人的資本に与える影響を研究しています。
- ②自由に行動でき、勉強できる時間は限られているので、好きなことをしっかり取り組んでください。

VUONG Dinh Tuan Nguyen



- ①My research focuses on development and environmental economics, examining how environmental issues such as pollution, deforestation, and climate risks can hinder the development process. In particular, I study how these challenges affect the accumulation of human capital (education, health) and physical capital (infrastructure, investment) in developing countries, especially Vietnam. This work seeks to understand how sustainable policies can promote long-term growth while protecting the environment.
- ②Economics is more than a study of money or markets — it is a way of understanding how people, communities, and governments make choices under constraints. It offers a systematic framework to think about real-world challenges such as poverty, inequality, climate change, and technological innovation. What makes economics particularly powerful is its emphasis on logical reasoning and evidence-based thinking. You do not need to be an economist to think like one, but studying economics teaches you how to organize complex ideas, question assumptions, and analyze decisions with clarity and rigor.
.Modern economics is becoming increasingly interdisciplinary. To understand and solve today's global issues, economists draw upon tools from mathematics, computer science, data analytics, and environmental studies. For high school students interested in economics, developing strong skills in these fields will provide a valuable foundation for future study and research. Ultimately, economics equips you not just to interpret the world, but to contribute to making it better — with thoughtful reasoning and practical solutions.

and social vulnerability. Understanding the world is the first step toward improving it, and this research gives us a rigorous, data-driven way to do exactly that.

- ②In my classes and seminars, I expect you to try, fail, adjust, and try again. Curiosity, not perfection, is the engine of scientific progress. If you are interested in exploring how GeoAI and modern mapping technologies can turn massive environmental data into knowledge for a more resilient and sustainable future, you are welcome to join us. Let's explore and protect our world together!

 **文化・社会開発分野**
Culture and Social Development

国際舞台を目指す学生に現代社会で生起する諸現象を文化の側面からアプローチする視点を定着させると共に、西洋中心の近代的価値観や諸制度を所与のものとすることなく、人間の文化の多様性を認識・尊重しつつ、異文化空間における広い意味での「対話(コミュニケーション)」を国際舞台で実践する事のできる人材の養成を目的としています。

関根 久雄
Sekine Hisao




- ①文化人類学、地域開発論、オセアニア島嶼研究。当たり前を疑い、現象の内側に隠れている意味を明らかにすること。
- ②大学受験や将来の進路など、悩ましいことばかりの日々かもしれません。多少遠回りになっても、自分にはハードルが高いと思ってしまうようなことであっても、後悔しない挑戦をしてください。それはきっと、あとになって何ものにも代え難い財産となって返ってくるはずです。

井出 里咲子
Ide Risako



- ①言語人類学、語用論、社会言語学、ことばと文化からひも解く人間社会の理解。地域：アメリカと日本、過去には韓国も。
- ②勇気と好奇心を胸に、いろいろな人と出会い、様々な景色を見て、複眼思考を身に付けてください。

松島 みどり
Matsushima Midori




- ①公共政策・国際保健医療・インパクト評価。特に、政策のデザインや実施方法に人がどのように反応するか、そしてどうすれば、より効果的な政策が実施できるのかを定量的に研究しています。現実社会に直結した問題を研究できるといった点が気に入っています。また、人々の行動について研究をしていると、自分がいかに人間の行動に無知であるかがわかり面白いです。
- ②心から楽しいと思える人生を、自分のために、自分の幸せに責任をもって歩んでください。

寺内 大左
Terauchi Daisuke




- ①研究分野：環境人類学/環境社会学。
研究分野の面白さ：同じ環境でも人や社会によって見方や価値のおき方が異なり、かわり方も異なる。世界の多様な人々・社会による多様な環境の見方、価値のおき方、かわり方を学び、よりよい環境と社会の関係/よりよい環境をめぐる人と人の関係を考えることは、これからの時代とても大事なことだと思っています。
- ②「物事の見方が変わり、考え方が変わり、行動が変わる」。そんな学びをしてもらいたいです。

柴田 政子
Shibata Masako



- ①教育社会史、歴史教育、比較教育。比較教育学：国際的な視点で、社会が変化する過程で教育が果たす役割を考えること。
- ②夢を追ってください。多様な生き方が受け入れられるようになった社会で、自分の感性を磨き信じて人生を歩み進んでください。

藤澤 奈都穂
Fujisawa Natsuho



- ①ラテンアメリカ地域研究、熱帯農村研究、アグロフォレストリー研究、熱帯林保全論
地域が変わると環境も人も文化も変わり、その地域特有の森林管理や農業が見られます。
それらの地域の独自性を、研究を通してグローバルな価値に繋げ、多様性を認め合う社会を目指していくことに面白みを感じています。
- ②迷ったらやってみる、が良いと思います!



情報・環境分野

Information and Environment

ITの発展は目覚ましく、国際舞台での活躍を目指す学生にとって必須になるものであり、また、環境・資源問題が深刻さを増し、地球規模での取り組みが必要になっています。基礎的素養として情報リテラシー、深い洞察力・分析能力を身につけさせ、さらに情報・環境分野での専門性を深め、国際舞台で活躍できる文工融合型技術者の養成を目的としています。

奥島 真一郎

Okushima Shinichiro



- ①環境経済学、エネルギー経済学、政策分析。環境やエネルギーに関する問題について、主に経済学的な視点から分析しています。「市場」や「マネー」という手段を「人間」や「環境」という目的(善)にどのように結び付けていけばよいのか、日々考えています。
- ②大学生になったら、専門的知識だけでなく教養を、また「自ら学ぶ習慣」を是非身につけてください。

鈴木 大三

Suzuki Taizo



- ①信号処理、機械学習、それらの画像・映像コンテンツ応用。スマホのカメラや動画配信サービスなど、身近な情報メディアに使われる画像・映像処理の研究をしています。
- ②国際社会では、情報を「理解する力」だけでなく「創り出す力」が求められます。情報メディア技術を味方に、世界を舞台に活躍しましょう。

高橋 伸

Takahashi Shin



- ①ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)。コンピュータと人のかかわりあいという面から、よりよいコンピュータシステムを探っています。情報科学、数学、社会学、心理学、人類学、哲学、など理系文系にわたって多くの分野にかかわる学際的な研究分野です。
- ②国際総合学類はいろいろな分野の教員がいて、幅広いもの見方を学べる学類です。情報科学やHCIも少しかじっておくと将来何かの役に立つかもしれません。

白川 直樹

Shirakawa Naoki



- ①河川工学 (水環境、水防災、水資源)
川には歴史があります。川の使われ方、洪水とのつきあい方、川の形や素材、流れる水の量、水質、川の位置、川にすむ生き物、川の中の岩や砂など、人間の歴史と自然の歴史が積み重なって生まれた現在の姿からその過程を読み解くところに面白さがあります。
- ②承認欲求に振り回されないようにしましょう。自分自身を見つめることは必要ですが、適度に目をそらすことも大事です。

亀山 啓輔

Kameyama Keisuke



- ①情報工学、特にパターン認識とメディア処理。五感から入ってくる刺激を学習に基づきカテゴリ分けし、さらなる状況判断に活用する、人間が持つ知的能力をコンピュータで実現することをめざす研究分野です。昨今、いくつかの応用に対してはコンピュータが人間を越えたとも言われますが、まだまだ人間をはじめとする生物、自然に学ぶことは少なくありません。
- ②自分が思い描いているゴールを実現するためには、自分にどのような能力が必要なのかを真剣に考え、時間を無駄にせず着実に前進してください。

Simona Vasilache

- ①Computer science/Software engineering. Computers represent this wonderful world that we so often depend on. However, they are very obedient, they do what we tell them to do. Learning how to make computers listen to us and work for us is interesting and cool!
- ②Do not be afraid to follow your dreams, to try new things. This is the time to find out what you love and pursue your passion, no matter what! Study hard, learn about the world around you, travel, read many books and make many friends!

松原 康介

Matsubara Kosuke



- ①多文化共生の都市計画。中東・北アフリカ地域の都市計画。
- ②留学を通じて心身共に鍛えましょう!

藤井 浩光

Fujii Hiromitsu



- ①フィールドロボティクス。実フィールドにおける未解決の課題に対して、ソリューションを提供する問題解決型の研究分野です。主にロボティクスやセンシング、AI技術などを駆使して、土木・建築を中心とした現場の課題解決に取り組んでいます。より便利で効率の良い社会の実現に向けて、直接的な貢献が実感できる分野です。
- ②産業の現場には、様々な課題が数多く残されています。将来、皆さんがそれらの課題を解決していくために専門的知見や技術は勿論、基礎的な考え方やアプローチ方法を身につけてもらえればと思います。

横田 壮真

Yokota Soma



- ①コンピュータグラフィックス、特に物理ベースレンダリングの研究を行っています。現実世界の光学系を参考に光と材質の挙動を数式でモデル化し、コンピュータ上で写実的な画像をつくる分野です。ゲームや映画などのエンターテインメント分野をはじめ、建築や工業デザインなどでも活用されています。研究成果が、最終的に美しい動画像として目に見えるかたちで得られるのが大きな魅力の一つです。
- ②高校までに学ぶ知識・教養は、大学以降の研究活動で必ず大きな支えになります。大学受験という枠組みを超えて、ご自身で問いを立てながら、主体的・能動的に深く勉強しておくと、大学での学びがグッと楽しくなると思います。



留学ばなしのほんの少し

ドイツ・ボーフム大学

西村 颯馬

Nishimura Soma



私は2024年9月から2025年8月までの12か月間、ドイツのボーフム大学に交換留学しました。ボーフムは、ドイツ西部のノルトライン＝ヴェストファーレン州に属する人口約35万人の比較的大きな都市ですが、街には落ち着いた雰囲気が漂い、国際色豊かな学生が集うキャンパスは、どこか筑波大学に似た心地よさがありました。

私がドイツを選んだ理由はシンプルです。私が専攻している環境問題・エネルギー問題について学ぶうえで、ヨーロッパで環境先進国としての地位を築いてきたドイツに行きたいと考えたからです。さらに昨今、ヨーロッパではロシア・ウクライナ情勢によるエネルギー情勢の変化というトレンドもあり、その大きな影響を直接受けているドイツに今のタイミングで学びに行く価値は大きいと考えました。

ボーフム大学では経済学部にも所属し、修士課程の環境経済学とエネルギー政策に関する講義にも参加しました。現地の優秀な修士生たちに混じり、ヨーロッパ・ドイツにおける最新のエネルギー市場動向や、実際の発電コストや便益を定量的に分析していました。本格的な英語での議論は簡単ではありませんでしたが、毎週新しい観点からエネルギーについて考える機会は刺激的でしたし、理論と実現可能性、現実との乖離問題について真剣に議論し考え抜く時間は、これまでの学びを一層深める貴重な時間となりました。

日々の生活からも大きな学びがありました。1年間で、トルコ、ルクセンブルク、イタリア、セルビア、アイルランドから合計5人のルームメイトと学生寮(WG)で過ごしました。国籍も性別も年齢も文化も生活

習慣も違う人達と共同生活することからは、いつも大きな学びがあります。自分にとっての当たり前が通用しないので、家事の分担からプライベート時間まで、共有・協力することと配慮・リスペクトすることを確認し、みんなで共通認識(ルール)を持つことを大切にしました。毎週のように共に料理を囲み、サッカーのチャンピオンリーグを観戦しながら何時間も語り合った夜は、異文化理解の本質を教えてくれた貴重な時間だったと、今になって思います。

今回、私はCampus-in-Campus協定校であるボーフム大学を選びました。キャンパスには筑波大学のオフィスがあり、日本人スタッフの方が常駐されているなど、困ったときに支えてくれる環境が整っていたことがとても心強かったです。それから、ボーフムは生活コストが比較的安く買い物や市内の移動が便利なので、留学生にとって住みやすさは抜群だったと思います。ドイツ西部の発達した陸路・空路のおかげで周辺都市へのアクセスも優れており、ドイツ国内外の都市を巡って各地で知見を広げることができました。

この1年間、正直苦労したことも多くありました。しかしそれ以上に、かけがえのない出会いや経験に恵まれた1年だったと強く思います。この留学を支えてくれたすべての方への感謝を胸に、残りの学生生活に精進していきます。

マレーシア奮闘記

マレーシア・マレーシア科学大学 (USM)

安藤 輝羽

Ando Kiwa



私は今、「東洋の真珠」ともいわれるマレーシア・ペナン島のマレーシア科学大学に約10か月間の留学をしています。到着から2か月ほどが経ち、綺麗なビーチや温暖な気候、野良犬に野生のオオトカゲ、日に5度モスクから聞こえてくるコーランなど非日常が日常になりつつあります。日本の冬から感じられる漠然とした寂しさや虚無感とは無縁に、汗をかきながらも陽気に生きております。

ペナン島は英国植民地時代と東南アジアの交易拠点としての歴史的背景から、多様な文化を有しており、中国系やマレー系、インド系など多種多様な民族が共存している地域です。特に、多民族・多文化社会が色濃く残っているジョージタウンは世界遺産にもなっています。

私の留学先であるUSMも同様に、ヨーロッパ圏やアフリカ圏、私たちと同じアジア圏出身など多様な環境でキャンパスライフを送っています。USMでは学生同士が交流できるよう、多くのイベントが企画されています。スポーツ大会や各国の食文化を紹介し合うイベント、みんなでプールに出かける企画など学生同士の交流の場が多く用意されています。

特に先日開催されたColor Runは約2,000人も学生が参加し、カラーパウダーを浴びながらキャンパス内を走る光景はまさに圧巻でした。

大学の授業では、グループワークやプレゼンテーションが多く、双方向型の授業で学びを深めています。学校以外の時間は、友人とテニスをしたり、ご飯を食べたり、週末や長期休みには国内外へ旅行をしたりしています。住んでいる寮の近くの通りには飲食店が多く並び、夜になるとたくさんのお客でにぎわっています。夜になるとそこに行き、新しい友人に出会ったり、与太話をするのが僕のお気に入りの時間の一つになりました。

ただ「海外で暮らしてみたい」という単純な動機から始まった私の留学ですが、実際に過ごす中で想像以上の広がりを見せています。語学力の向上は勿論、宗教観や異文化への理解、日本を外から見る視点、そして新たな友人との出会い。得られるものは想像以上に多くなる予感があります。大学生期間を「人生最後の夏休み」や「モラトリアム」と呼ぶ人もいますが、確かに俗な利害関係に縛られずやりたいことをできる大きなチャンスだと感じています。ただ自分がやりたいことにばかばかしいほどの情熱やエネルギーを注ぐことができるチャンスです。それが留学かどうかは関係なく、学業や部活、サークル活動なんでも良いと思います。ぜひ、楽しく有意義な学生生活を送ってください。私自身も大学生活後半でのマレーシア留学を全力で楽しんでいこうと思います。

留学にまつわる私の心境

マレーシア・マレーシア国民大学

徳永 宣佑

Tokunaga Yoshihiro



私は2025年の10月から2026年の2月までの4ヶ月の間、マレーシア国民大学で交換留学をしていました。この大学での生活は、いくつかの点で筑波大学を彷彿とさせました。首都クアラルンプールから電車で1時間ほどの所に位置していることを始めとして、キャンパスが広大で様々な学部や施設で充実していることや、自然が豊かであることは、日本の大学生活を懐かしく思わせてくれました。特にこの大学は山という森の中に位置していて、猿を見ない日はなく最初の方は怖かったのですが、段々と可愛く見えてきました。

私がマレーシアへ留学に行くことを決断した理由としては、私の関心と機会が関係しています。私は国際的なことと文化について学びたくて国際総合学類に入りました。そして授業で東南アジアの文化や生活について学んだり、一年生の夏休みにベトナムへ旅行したりすることを通じて、私は東南アジアと文化交流に興味があることを再認識しました。その結果、東南アジアの中でも多民族国家と知られているマレーシアに留学し、そこで体験・学習することを独論や卒論に関連付けたいと強く思うようになりました。実は入学当初は、費用や在学年数が延びるという観点から、留学には行かないと思っていましたが、次第に「大学生の内に留学に行かないと何かもったいない。」と思う気持ちが高まり、2年生の秋に飛び入りで留学説明会に参加しました。そこで留学に必要な費用や奨学金の話、留学期間について詳しく知り、私の留学への気持ちを抑えていた要

素を和らげることができ、急遽留学を決意することに至りました。留学について興味がある・悩んでいる人は、一度留学説明会に行くことを強くお勧めします。マレーシア国民大学での生活はインターネットの発達のおかげか、思っていたよりも想像の範囲内のことが多かったです。寮住みを再び始めた、秋がいつまでも来ない大学生活が続いている感じでした。しかし、カルチャーショックと形容するほどの衝撃はあまりなかったですが、日本や筑波大学では感じるものがなかった、心情が動かされる体験は数えきれないほどありました。日本人が珍しがられた時や、他の留学生と夜まで話した時や、言語の壁を感じた時、ASEAN関連のイベントに参加した時など、マレーシアで実際に生活していると日本では出くわしたことがない様々な状況に出会いました。知識・情報を事前にいくら多く持っていたとしても、それを実感する時の感情は頭の中では想像できませんし、そもそも想定外の出会いや場面は必ずあります。マレーシアでの留学を通じて得た感情や体験は一生忘れないものになるでしょう。留学に行く目的は人それぞれですが、日本を離れて他の地で長期間生活することで思いもよらなかったことに幾千回も遭遇すると思いますし、それがまさに留学の醍醐味であると思います。自分の想像を超えた体験をしたい人は、是非とも留学に試してみたいかかでしょうか。

The best of both worlds!!

オーストラリア・ウーロンゴン大学

野口 凜々子

Noguchi Ririko



突然ですが質問です！
皆さんが海外に興味を持ったきっかけって何だったのでしょうか？
国際総合学類に興味がある、所属している皆さんなら一度は海外というものに惹かれたことがあるのではないのでしょうか。人それぞれ色んなきっかけがあると思いますが、私はそれが海外ドラマと映画でした！特に「ハンナモンタナ」というドラマが大好きで、いつかこの景色を見たい…とずっと恋焦がれていたのです。

さて、そんな漠然と日本の外に憧れ続けた私の初海外は、大学1年生の春休みに行われた海外英語研修IIのオーストラリアでした。この研修は筑波大学の数ある短期海外研修の1つで、3週間オーストラリアのウーロンゴン大学に通って現地の文化と英語を学習する、というものです。私はちょうど高校3年間をコロナ禍で過ごし、当時は海外に行くというビジョンが見えづらくなってしまっていました。そんな時偶然大学のサイトでこの研修を見つけ、小さいころからの夢をかかなるべく参加を決心したのです。

ウーロンゴンはオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のシドニー近郊に位置し、海と自然、そして穏やかな街並みが共存する街です。3月に行われた研修だったので、オーストラリアは晩夏、夏と海が大好きな私にとっては最高の環境でした。平日の午前中は大学に通って英語と文化を学び、午後は毎日友だちと海で遊んだり街でショッピング、週末はシ

ドニーに行ったりもしました。授業の内容はとてもユニークで、座学もあれば、なんと海にサーフィンをしに行く日や動物園に行く日も！日本と全く異なったそれらの授業はとても楽しく、貴重な体験でした。また、その期間は現地の方の家にホームステイをします。私のステイ先は3人家族と犬3匹で、みんなで夕飯の食卓を囲んでその日あったことを聞いてもらう時間が毎日の楽しみでした。これらの様々な経験から本場の英語に触れることで、外国語に対する向き合い方も大きく変わり、前より英語を楽しんで話すことができるようになりました。

日本の外を知ってから、私の世界は広がりました。自分の当たり前が通用しない世界、同じ人類であるはずなのに住む場所が変わるだけでこんなにも違うのか、と！そして、他国のすばらしさを知ると同時に、日本の良さも改めて知ることになりました。特に、日本文化の流通は皆さんを必ず驚かせるでしょう。

迷っている方には、ぜひ勇気を出して一歩を踏み出して欲しいです。もちろん、私のようにあこがれを持っている方、すでに良さを知っている方はその思いのままに飛び込んでください。経験するのは必ずしも良いことだけとは限りませんが、どんな経験も間違いなくあなたを大きく成長させてくれるはずです。どの世界もあなたにとって最高の場所になるでしょう！あなたのチャレンジを心から応援しています！

06 OB・OGからのメッセージ

「大学では絶対に海外留学をする」。その強い思いを持って、私は2020年に国際総合学類へ入学しました。しかし、新型コロナウイルスの流行により、入学式も対面授業も無く、思い描いていた大学生活と現実とのギャップに戸惑い続けたことを覚えています。やがて社会状況が少しずつ落ち着き、周囲の学生が留学準備を進めていく姿を目にする中、「正直、このままでは大学時代の留学は叶わなにかもしれない」と揺らいだ時期もありました。それでも目標を諦めず挑戦を続ける同期の存在が、再び私の背中を押してくれ、大学3年の冬にスロベニア留学を実現しました。日本人が2%しか訪れないと言われる国で、周囲のほとんどが欧州出身者という環境下、私は完全なマイノリティとして暮らしました。「日本の印象は自分の言動で形づくられる」という事を、日々のコミュニケーションの中で強く実感し、その経験は世界における日本の立ち位置、そして自分が何を大切にして生きていきたいのかを深く見つけ直すきっかけにもなりました。留学以外にも、海外研修、サークル活動、やってみたかったアルバイト、ゼミ活動など、すべての経

やらない後悔よりやる後悔を



大学時代、留学中の写真

倉岡 未栞
2024年度卒 (38期)
総合商社勤務 (トレード業務/投資会社管理)

験が今の私をつくっています。現在は総合商社に入社し、モビリティ分野の国際ビジネスに携わっています。途上国向け自動車のトレードや、海外投資先企業の事業管理が主な業務であり、将来的には海外駐在し、現場の最前線で活躍することを目指しています。大学生活は、自分の「やりたい」に最も敏感かつ素直いられる貴重な時間です。社会人1年目はありますが、働き始めると、自分の気持ちより仕事が優先になりがちで、興味関心に気づく機会自体が減ってしまうように思います。だからこそ、大学生の皆さんには「少しでも興味があれば挑戦してみる」「学年を越えて多様な人の話を聞く」「心が動いた瞬間を記録することをお勧めしたいです」人生の選択に正解はなく、選んだ道を正解にしていくのは自分自身です。恵まれた環境である筑波大学で、ぜひ「やらない後悔よりやる後悔」を！一度きりの大学生活を大切に、存分に楽しんでください。

私は大学卒業後、筑波大学大学院のシステム情報工学研究群へ進学し、現在は組織設計事務所にて、国内の建築や都市に関わる仕事をしています。入社当初は、首都圏の大規模開発や外資系ホテルのプロジェクト推進に向けたマネジメント業務に携わっていました。3年前に大阪へ転勤となり、現在はディベロッパーとともに行政への都市計画提案や将来を見据えたまちのビジョンづくりなどに取り組んでいます。まちが徐々に変化する現場に立ち会えることに、大きなやりがいを感じています。今は心から「面白い」と思える仕事に就いていますが、入学当時は、いまの自分の姿などまったく想像できていませんでした。私が筑波大学を選んだ理由は、全国大会常連のハンドボール部で競技に打ち込みたかったからです。体専ではなく国際を選んだのは、アスリートとしての将来に見切りをつけつつも、留学など国際的な学びにも挑戦したいという気持ちがあったからです。

1・2年次は、午後の授業をなるべく避けて時間割を組み、長期休暇も関係なく、毎日練習に明け暮れる生活。そんな私にとって大きな転機となったのが、3年次のゼミ選びです。ゼミ紹介を聞く中で、なぜか一番心惹かれた都市計画系ゼミを選び、指導教員の勧めで、パリの建築学校へ1年間留学



2024年夏、九鼎山(中国四川省)にて

森下 奈央
2019年度卒 (33期)
都市開発

を確実に広げてくれるからです。筑波大学での4年間は、人生で最も自由で、最も自分に投資できる時間です。迷ったときは、ぜひ「ワクワクする方」を選んでみてください。

大学で「グローバル人材」という言葉を耳にして以来、その定義を考え続けている。それは、場所や環境、時間に縛られず、常に自力で生き残る能力を備えた人材のことだろう。多様な環境を転々とする中で、私は常に自問自答してきた。「自分はどれくらい近づいているのか」と。この問いの答えは、単なる英語力や海外経験ではない。真のグローバル人材は、組織に頼らず、自らの意志と明確な指針に基づき判断を下し、経済的にも自立している状況で初めて成立する。この自立が国内という限られたセッティングに留まるならば、「グローバル」とは言い難い。大学時代、異文化コミュニケーションや国際開発といった学びに時間を費やし、「世界に出たい」という漠然とした想いを抱えたまま総合商社に入社。旧ソ連圏ビジネスに没頭し、ビジネスの基礎は身についたが、旧態依然とした日本の大企業文化は、求めるグローバルな環境とはかけ離れていた。もっと世界市場に切り込む環境を求め、グローバルブランドの生産部隊へ転身。上海やジャカルタの最前線で、アジアの経済状況を見極め、機敏な意思決定とオペレーションの高速化を担う産地戦略のポジションに身を置いた。しかし、目の前のパフォーマンスに注視するあまり、大局観を見失い始めた。「自分の意思決定は世界を良くしているのか」という疑問が募った。組織人としての基盤と意思決定のノウハウは得た。今、

真の「グローバル人材」を目指して



国際27期中国駐在メンバーと旅行先の福建省の土楼にて (写真右が筆者)

郷坪 史朗
2024年卒 (38期)
WOTA株式会社 海外事業開発

私は組織を変え、環境を変え、落ち着いた人間と映るかもしれない。しかし、自分なりの答えを探し求めて動き続けている真っ最中だ。自分の意志で道を切り拓き、世界をより良くできるようになったその日こそ、「真の」グローバル人材になったといえる日だと信じ、その頂を目指している。

国際総合学類39期の熊谷秀人です。NHKで今年からアナウンサーとして働いています。「アナウンサー」というと、どのような仕事をイメージしますか。きっと「話す仕事」と答える方が多いと思います。もちろんニュースは読みますし、人前で話す機会は多い仕事です。ただ、半年働いた実感としては圧倒的に「調べる仕事」です。最近は物価高のニュースを伝えることが多くなりました。不思議なもので「なぜ物価が高騰したのか」を知らずに読んだニュースと、「ロシアのウクライナ侵攻や円安が影響しているんだな」と理解して読んだニュースとは間や抑揚にわずかな差が生まれます。ニュースという世の中に起きている「結果」に対して、その背景に「好奇心」をもって、理解しようと努力することがとても大切だと感じています。様々な出来事に「好奇心」をもって面白がることのできるようになったのは国際総合学類での学びのおかげです。私は、漠然と国際開発に関わりた

いと思い入学しました。そこで待っていたのは1つの学類にくっついていいのかというくらい多様な学びでした。チャップリンの無声映画を観て労働形態の変化を学んだり、関数を使って公共政策の成果を分析したり。単にミー

ハー心というか昨日まで知らなかった様々なことを知ることが楽しくて。また様々な視点を持っている同期との雑談のなかで思わぬ発見があったりと、入学前よりいろいろなジャンルに好奇心をもっていろんなことを「面白がれる」ようになっていきました。

では、「好き」だけでいいのかというところではありません。何かを突き詰めようとするれば残念ながら楽しくないことはやってきます。大学の陸上競技部でお世話になっていた監督の口癖が「楽(らく)と楽しいはちがう。楽しみたいなら楽するな。」という言葉でした。好きなことをしていても「つらいこと」、「苦しいこと」は必ずやってきます。その時に楽な方向に流されず、グッと踏ん張る「心の足腰の強さ」を持つことも必要です。こんなに偉そうなことを書いておきながら大学時代は「ゼミはどこがいいか」「卒論のテーマは」「就活はどうしよう」と迷ってばかりでした。私から皆さんに伝えられることは「好きなものが見つかるまではとことん迷う！これだというものが見つかったら少しだけ踏ん張ってみる。」そして、

案外なんの変哲もない友達との時間が一番の思い出になったりします。大いに迷って少しだけ踏ん張って、何物にも代えがたい学生生活を送ってください！応援しています！

少しの好奇心と心の足腰の強さを



宮崎局の決めポーズで入局後初めてニュースを読んだ後の写真

熊谷 秀人
2025年度 (39期)
アナウンサー



スペイン語

- ① 近畿
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ 中央図書館のスターボックス



A priori
(原理からすると 自明な)

- ① 関東
- ② 吉田脩ゼミ (国際法)
- ③ 3K 棟




Чему быть, того не миновать
(起きることは避けられないこと)

- ① 関東
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 3K 棟のサテライト室



harapan

- ① 中部
- ② 環境の人類学・社会学ゼミ (寺内大左)
- ③ 粉とクリーム




Live a life you will remember

- ① 関東
- ② 柏木ゼミ (中東・北アフリカ経済研究)
- ③ 中央図書館



Just the way you are

- ① 九州
- ② 外山文子ゼミ (東南アジア政治)
- ③ 全代会 PC 室



It's a piece of cake!

- ① 関東
- ② 佐藤ゼミ (中東・イスラーム研究室)
- ③ 3 学フリースペース



sortie

- ① 北海道
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ グロビの自販機のとこ



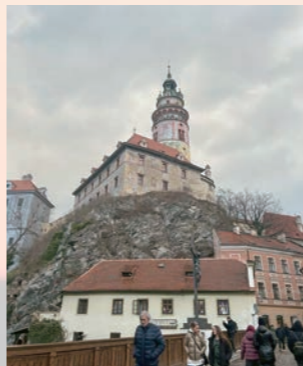
生的伟大, 死的光荣

- ① 関東
- ② 毛利ゼミ
- ③ 5C 棟



C'est la vie.

- ① 関東
- ② 東野篤子ゼミ (ヨーロッパ国際政治)
- ③ 中央図書館 M1 階の書庫




Suss

- ① 九州
- ② 松島ゼミ
- ③ 中央図書館



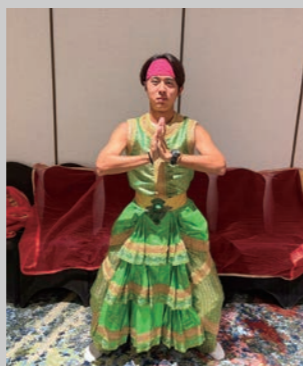
Boys, be ambitious!

- ① 関東
- ② 黒川義教ゼミ
- ③ 5B510



someone who knows pain can be kind to others

- ① 関東
- ② 森林文化ゼミ
- ③ 陸上競技場の芝生



Nasi Lemak

- ① 関東
- ② 森林文化ゼミ
- ③ 春日エアテニスコート



Challenge and Conquer

- ① 北海道
- ② 高橋ゼミ (ヒューマンコンピュータインタラクション)
- ③ 3K201



Doch! (ドイツ語)

- ① 関東
- ② 奥島ゼミ (環境・エネルギー経済学、環境倫理)
- ③ サッカー場 (通称 1 グラ) と、グロビ (Global Village) の自販機スペース



take it easy!

- ① 関東
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 3K 棟



Carpe diem

- ① 関東
- ② 松原康介ゼミ (都市計画・都市史)
- ③ たいばち



C'est la vie

- ① 北海道
- ② 大友貴史ゼミ (国際関係論)
- ③ スタバ



英語

- ① 東北
- ② 森林文化ゼミ
- ③ 天三から一の矢にかけての銀杏並木



新城

(中国語、新市街的な意味)

- ① 関東
- ② 中野優子ゼミ (開発経済学・ミクロ実証経済学)
- ③ 図書館一階



Gezellig

- ① 東北
- ② 東野篤子ゼミ (ヨーロッパ国際政治)
- ③ 松美池



ভালো আছি!

- ① 九州
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ 3k 棟 2 階ラウンジ



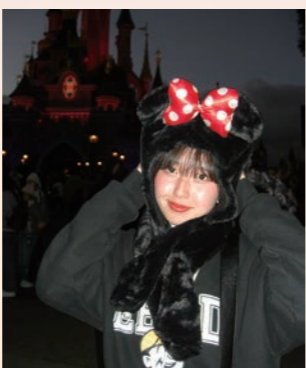
特になし

- ① 関東
- ② 国際法ゼミ (国際学ゼミナール I)
- ③ 野球場駐車場



T'inquiète!

- ① 中部
- ② MADANI Zia Seminar (Topics in International Law)
- ③ 中央図書館前のスターボックス



Life is what I make it!

- ① 東北
- ② 佐藤ゼミ (中東・イスラーム研究室)
- ③ スターボックス



cepat cepat (マレー語で早く)

- ① 中部
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 一の矢学生宿舎



- ① 関東
- ② 白川ゼミ (河川 / 水環境)
- ③ 3A204



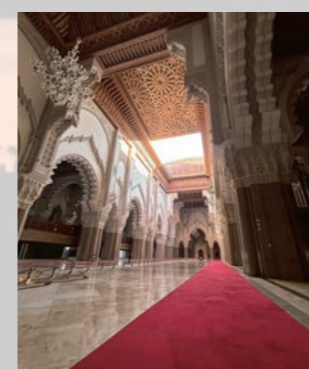
Nexus

- ① 九州
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ サテライト室



Action is the foundational key to all success. (Pablo Picasso)

- ① 関東
- ② 中野優子ゼミ (開発経済学・ミクロ実証経済学)
- ③ 松美池沿いのイチョウが綺麗なところ



우포

- ① 関東
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ 春日体育館のラウンジ



Whatever happens, happens

- ① 近畿
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 球技体育館



Everything happens for a reason

- ① 関東
- ② 奥島ゼミ (環境・エネルギー経済学、環境倫理)
- ③ 図書館



Do my best

- ① 近畿
- ② 柴田政子ゼミ (比較国際教育)
- ③ 文化系サークル会館和室



Tere

- ① 関東
- ② ことばと文化ゼミ (井出ゼミ)
- ③ 3 学の食堂



Lune

- ① 関東
- ② 柴田政子ゼミ (比較国際教育)
- ③ 中央図書館



Zikomo
(マラウイの公用語で「ありがとう」)

- ① 九州
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 3 学食堂



ပံ့ပိုးစာရံ
(ポーペンニャン)

- ① 東北
- ② 環境の人類学・社会学ゼミ (寺内大左)
- ③ 粉とクリーム



C'est la vie !

- ① 東北
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ 石の広場



フランス語

- ① 関東
- ② 中野優子ゼミ (開発経済学・ミクロ実証経済学)
- ③ 中央体育館下



フランス語

- ① 関東
- ② 高橋ゼミ (ヒューマンコンピュータインタラクション)
- ③ 一ノ矢の紅葉



connecting the dots

- ① 関東
- ② 環境の人類学・社会学ゼミ (寺内大左)
- ③ 体芸図書館



Flat is first, Flat is fast.

- ① 九州
- ② 潘亮ゼミ (日本外交)
- ③ 共同利用棟 D



Self Love

- ① 関東
- ② ことばと文化ゼミ (井出ゼミ)
- ③ ダンス場



リンダオ

- ① 関東
- ② 白川ゼミ (河川 / 水環境)
- ③ 文サ館裏手




C'est la vie.

- ① 関東
- ② 文化人類学 / 「開発と文化」論ゼミ (関根ゼミ)
- ③ 図書館



中国語

- ① 関東
- ② 白川ゼミ (河川 / 水環境)
- ③ 平砂カスミ



Work

- ① 東北
- ② 佐藤ゼミ (中東・イスラーム研究室)
- ③ 館下

07 学生紹介

好きな外国語 / 好きな外国語の言葉 ①出身地 ②所属ゼミ ③大学で一番好きな場所



ridiculous

- ① 関東
- ② 柏木ゼミ
(中東・北アフリカ経済研究)
- ③ 文化系サークル会館



Хорошо!

- ① 九州
- ② 日高薫ゼミ (国際政治学)
- ③ 武道館



Cantamos para no llorar

(泣かないように歌おう)

- ① 中部
- ② 白川ゼミ (河川/水環境)
- ③ 粉くり



Be the change you wish to see in the world

- ① 中部
- ② 環境の人類学・社会学ゼミ
(寺内大左)
- ③ 虹の広場



Un poco

- ① 関東
- ② 黒川ゼミ
- ③ 石の広場



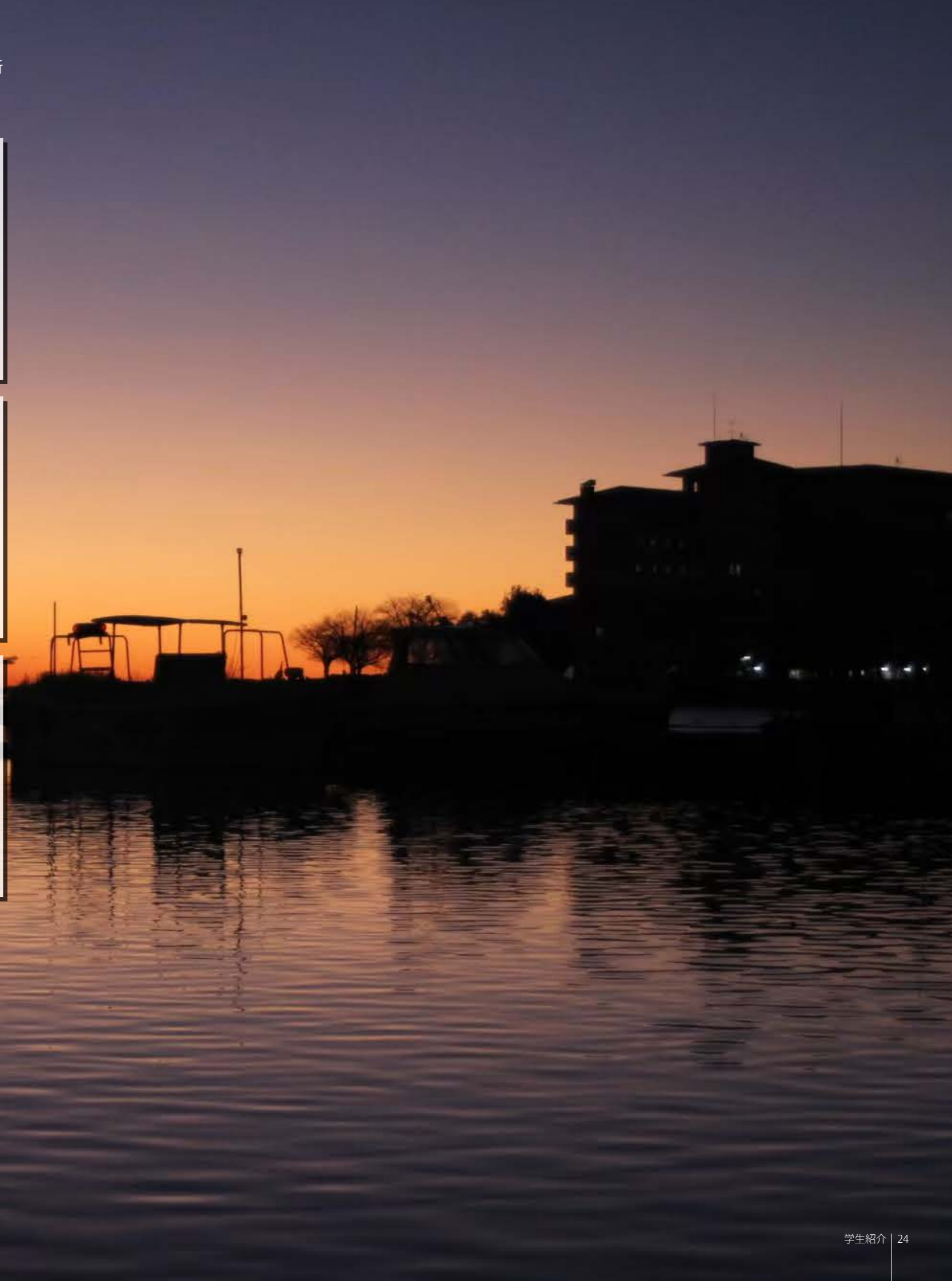
Danke schön

- ① 中部
- ② 社会開発実証研究ゼミ
(松島みどり)
- ③ 石の広場



Infinity

- ① 関東
- ② 黒川ゼミ
- ③ 図書館



08 編集後記

本号の制作は、都市文化共生計画ゼミに所属する国際総合生の6人のメンバーで取り組みました。普段はそれぞれが自分の研究テーマに向き合い、議論を重ねている私たちですが、今回は学類誌という一つの形に向かって協働するという、少し新鮮な経験になりました。原稿の方向性を話し合い、誌面の構成を考えゼミで培ってきた“考える力”や“問いを立てる姿勢”が、思いがけず別の形で活かされていることを実感しました。

制作メンバーは、3年生が1人、4年生が5人という体制でした。学年が違うからこそ視点も少しずつ異なり、「国際総合学類とは何か」「自分たちはここで何を学んできたのか」といった問いに対して、多角的に考えることができたように思います。特に4年生にとっては、卒業を前に改めて学類での学びを振り返る機会となり、何気なく過ごしてきた授業やゼミでの議論が、自分の中でどのように積み重なってきたのかを再確認する時間にもなりました。一方で3年生の視点は、今まさに学びの途中にあるからこそその率直さがあり、誌面にほどよい新鮮さを加えてくれました。

インタビューを通して強く感じたのは、国際総合学類の学びの幅広さと奥行きです。地域研究、国際政治、経済、文化、法——それぞれの分野で異なる問いを立てながらも、共通しているのは「世界をどう理解するか」という姿勢でした。記事をまとめる過程で、私たち自身も改めて「なぜこの分野を選んだのか」「何を明らかにしたいのか」と自問することになり、本誌の制作は単なる編集作業を超えて、自分自身の学びを見つめ直す時間になったように思います。

本誌の制作にあたり、ご多忙のなか快くインタビューをお引き受けくださった先生方、そして貴重なお話を聞かせてくださったOBOGの皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまの言葉があったからこそ、本誌は単なる学生目線の記録ではなく、「国際総合学類で学ぶ」ということの広がり伝える内容になりました。

最後になりますが、本誌が、在学生にとっては自らの学びを見つめ直すきっかけに、そしてこれから国際総合学類を目指す方々にとっては、その魅力を感じる一助となれば幸いです。本号の制作に関わってくださったすべての皆さまに、改めて感謝申し上げます。

